

インタビュー#002は、前所属先での休部を経験し、新天地で飛躍を誓う二人の選手にスポットを当てます。

一人は、一光(2007年休部)で休部を経験した伊志嶺孝寛選手。

もう一人は日産自動車九州(2009年休部)での休部を経験した進林桂太選手のお二人です。

彼らの現在の心境に迫ってみました。

◆写真提供/QAZ

球明会ニュース2011年第1号(平成23年1月10日発行)
 <通算発行第3号>
 発行人/小橋諭吉 企画・編集/球明会事務局
 〒701-0206岡山市南区箕島3981シティライトセンター2F
 TEL086-282-8686

かつて「ノンプロ」と呼ばれた社会人野球の隆盛ぶりは、見る影を潜めた。08年秋のリーマン・ショック以降、世界中が不況の波にさらされたのは周知の通りだろう。当時、日産自動車に所属していた進林もこの波の渦中にいた。社会人野球の名門、日産自動車が2009年限りで野球部の活動を休止するというニュースは、社会人野球界に大きな衝撃を与えた。

当時、九州の野球部に在籍していた進林は高卒わずか3年目にして路頭に迷うこととなった。

移籍先を探す日々。進林は「伝統あるチーム」というよりもむしろ自分と同じく若い「新興チーム」に照準を絞る。歴史も浅く可能性を秘めたシティライトへの移籍を日産スタッフに打診。テスト当日、伝統の赤いユニフォーム姿で岡山へやって来た。

紅白戦形式の3打席で見事なバットさばきを披露。左右に打ち分け2安打を記録。野球人にとって、いつかは脱ぐときに訪れるユニフォーム。そんなことも頭によぎったあの日。真新しい青色のユニフォームに身を包み、黙々と必死になってバットを振り続ける姿からは、新天地にかける思いや感謝の気持ちが伝わってくる。

寡黙な九州男児は今季、自らのバットで聖地(ドーム)への道を切り開く！

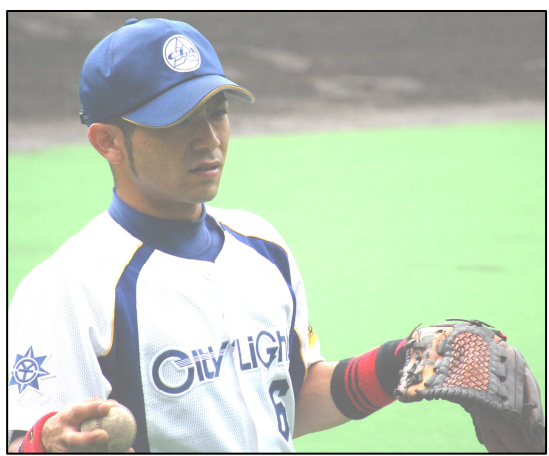


新天地で聖地を目指す二人のサムライ

伊志嶺孝寛 × 進林桂太

【内野手・書類課所属】

【外野手・シーボーイ本部所属】



沖

縄県石垣市。大自然で生まれ、物心付いたときには左手にはクラブ。打席では左打ちの形が出来上がっていた。石垣島から八重山商工高を引きつれ甲子園で旋風を巻き起こした伊志嶺吉盛監督。野球人・孝寛を育てた実父である。「野球をする為の環境は親父が作ってくれました。島では野球しかなかったです」高校を卒業すると関東の大学に進学。しかし、部内で大きく衝突してしまう。大自然と大都会。いろんな葛藤があったのだろう。若さかも知れない。孝寛は大学中退を選んでしまう。しかし、大学中退後も野球の虫は治まらない。野球を教えてくれた父はもちろん、知人に相談した。「もう1度、野球がしたい！」

そんな時、名古屋の企業チーム、一光が彼のセンスに目をつけた。

1年目からレギュラーを掴むと日本選手権にも出場した。ドラフト注目選手として騒がれたその年、休部が発表された。「休部した年のドラフトに漏れ一番に声をかけて頂いたのがシティライトでした。ありがたかったです。」と振り返る。「人の繋がり、環境、会社、全てに感謝です！」と進林と同様「感謝」を表現した。

現在、妻(まどかさん)のお腹の中には野球人・伊志嶺孝寛のDNAが宿っている。もうすぐ父親となる孝寛。気が付くと、厳しかった父の心境もわかる年齢になっていた。

Profile

いしみね・たかひろ●1984年(昭和59年)5月13日生、沖縄県石垣市出身。173cm・70kg、右投・左打。去年の甲子園、春夏連覇の興南高OB。大嶺(現・千葉ロッテ)らを率いて甲子園旋風を起こした八重山商工高監督の吉盛氏は実父。大自然で育んだ抜群の野球センスで社会人一光時代はドラフト候補に名乗りを上げた。2008年の創部と同時にシティライトに移籍。数少ない全国経験者(一光時)の一人として新天地4年目の飛躍を誓う。背番号6。26歳。既婚。(写真左下)

しんばやし・けいた●1988年(昭和63年)8月31日生、福岡県豊前市出身。180cm・80kg、右投・左打。中津工高1年夏から4番打者として活躍。卒業後は日産自動車九州に入社。強肩・強打で第34回日本選手権大会で全国デビュー。2009年限りで休部となり2010年からシティライトに移籍した。移籍一年目から4番・右翼手としてレギュラーを獲得。

プロも注目するスラッガーに今年も大きな期待がかかる。背番号31。22歳。独身。(写真右上)

★野球部員ブログ「ロッカールーム」好評公開中！<http://ameblo.jp/player-blog/>

